令和５年度　学校評価表

東広島市立東西条小学校

教育目標	『夢と志』をもち　グローバル社会を挑戦し続ける児童の育成　～　学ぶ　　鍛える　　仲良く育つ　～
経営理念	【ミッション】 保護者，地域とともに教育の充実に取り組み，これからの時代をたくましく生き抜くための資質・能力を身に付けた児童を育成する。 【ビジョン】 ● 学びがいのある学校：何事にも挑戦しようとする教育活動を推進し，確かな学力，豊かな心，健やかな体を育む学校 ● やりがいのある学校：自覚と誇りをもって，意欲的に職務に精励する学校 ● 応援しがいのある学校：保護者，地域から信頼される学校

評価計画					取組			自己評価						外部評価	改善計画
	中期経営目標	短期経営目標	評価指標 （短期目標がどの程度達成できたかを計るための指標）	目標値	分掌	担当	目標達成のための方策（取組）	達成値 10月	評価	達成値 2月	達成度 2月	評価	結果と課題の説明	コメント	改善案 （来年度に向けて）
学ぶ	基本の確実な定着と主体的・対話的で深い学びの実現を図る。授業の研究や研修を通して授業改善を進め、基礎・基本の確実な定着を図る。	基礎・基本の確実な定着	国語，算数単元テストの到達率85%以上の児童の割合を各クラス80%以上	100%	教務部	長野	・週2回，朝会の時間を活用し，国語と算数の問題に継続的に取り組ませることで，基礎的・基本的な知識や技能を定着させる。 ・学習規律の徹底を図るとともに，ノート指導について，学習の場面を焦点化して，校内研修を行う。 ・タブレットを活用した個別ドリル学習を効果的に取り入れる。	50.0%	1				・９月時点では，目標を下回った。単元テストの到達率８５％以上の児童の割合が，８０％以上の学級は，国語科が１６学級中７学級，算数科が１６学級中８学級となった。各学年の傾向を分析し，実態に合わせた取組が必要である。児童の実態を丁寧に見取り，適切な問題を用意する朝学習の継続に加えて，授業中における基礎・基本の定着を目的とした授業を仕組んだり，タブレットを活用した効果的な学習に取り組んだりしていく。		
		主体的・対話的で深い学びの実現	児童アンケート「対話的な学び」という項目に肯定的に回答した児童の割合	80%	研究部	岩見	・「教師のファシリテート力」を追究し，「傾聴＝聞き合う」ことにより，児童が互いに問いを出し合い，連続的に問いが繋がる授業づくりを行う。 ・算数科では数学的活動を通して伝え合うことを中心に授業づくりを行う。 ・研究部会の場を活用した授業研究を実施(各学年部１回の全体研修での提案授業)する。	87.0%	4				・友達との対話的な学びへ肯定的な意識をもっている児童の割合を８０％以上にすることができている。今後は対話的学びへ否定的な回答をした児童へ向けての支援を，校内研究会で学んだことや，話し合ったことを日々の授業に取り入れ，学校全体で取り組んでいく必要がある。児童同士が学び合いたくなる問いを設定したり，話し合う場を授業中に適宜設定し，聞き合うことへの継続的な支援を行うようにしていく。		
		読書活動の充実	授業において各学級が図書室または図書館を活用した回数の平均	年間5回	教務部	小笠原	・昨年度の司書教諭との連携記録や，図書室・市立図書館の利用記録を活用し，利用を促進していく。 ・市立図書館の使い方を研修し，取り組みを継続していく。 ・読書紹介文コンクールを活用し，読書活動の充実を図る。	2.3回	3				・現段階では目標値を下回っている。クラスや学年によって0回から5回までばらつきがあった。利用の内容としては国語科の読書単元が多く，調べ学習や国語科以外の教科での利用は少なかった。司書教諭との連携や市立図書館の利用も少なかったので，職員に目標回数を周知し，効果的に活用できるよう利用を促進していく。		
鍛える	教職員の意識を統一した取組を行い、健やかな体の育成を図る。	体力の向上	「立ち幅跳び」「上体起こし」における県・国の平均を上回る割合	70% 立ち幅跳び 上体起こし	保健安全部	石橋 二上	・体育科の授業前に行うサーキットトレーニングの中に瞬発力や筋力を向上させる運動を取り入れる。 ・週間体育目標を設定し，音読カードの中に「体力つくり」の項目を入れることにより，日常的に運動に取り組ませる ・様々な運動を紹介して，児童の実態に即した体力つくりを行えるようにする。 ・教職員へ立ち幅跳び，上体起こしに焦点化した指導方法の情報提供，共有化を図る。	57.6%	2				・９月時点では目標値を下回っている。上体起こしについては，日ごろの授業の姿勢で背筋を伸ばして話を聞くことが難しい児童が多いことにも関連があると考えられる。普段から姿勢を良くして話を聞くことを担任と連携していきたい。また，今年度は体育館が使えないため，マット運動など，床を使って行う運動の機会が減少していることも原因だと考えられる。家庭学習で目標達成のための体力つくりを推奨したり，委員会と連携して楽しく体を動かす取組を行ったりして体力つくりに取り組んでいく。		
			児童アンケートや「運動や運動遊びに親しむ」という項目に肯定的に回答した児童の割合	80%		石橋 二上	・体育科の授業の中で，単元に関連した運動遊び等を取り入れ，体を動かすことの楽しさや，達成感を感じられるようにする。 ・様々な遊びに取り組めるようにいろいろな遊びを紹介したり，場の提供をしたりするなどの工夫をする。	91.0%	4				・ほとんどの児童が友達と体を動かすことの楽しさや達成感を味わう中で，日頃から積極的に体を動かして遊んでいる。運動することに否定的な回答した児童は，女子に多く，運動することに苦手意識を持っている児童もいることから，体育の授業や休憩時間の遊びの中で，成功体験を積ませることで，前向きに運動に取り組めるようにしていく。		
仲良く育つ	保護者や地域と連携し「豊かな心」の育成を図る。	東広島スタンダードの徹底（挨拶）と無言掃除	児童の自己評価（挨拶・無言掃除） 【振り返り・アンケート】 地域・保護者の肯定的評価 【学校評価アンケート】	児童 挨拶90% 掃除90% 地域・保護者 80%	生徒指導部	山道 田村 江藤	・レベル３以上の挨拶を目指す。委員会活動を活用しレベル３以上の挨拶ができている児童の紹介。 ・掃除後の振り返りを通して，児童に無言掃除を意識付けていく。 ・学校だよりなどを通して，家庭への啓発活動を行う。 ・保護者アンケートを実施して，地域での児童の挨拶の実態を把握し，評価する。	児童 挨拶 96.6% 掃除 82.2% 保護者 86%	2				・児童会の挨拶運動で各学年のあいさつ名人を発表することで，挨拶をすることへの意欲が高まってきている。しかし児童の挨拶の肯定的評価87%で，目標の90%にまだ達していない。朝の挨拶がまだ十分ではないので，学級でも教室に入る時などに挨拶ができるように指導し，様々な場面で挨拶ができるようにしていく。 ・無言掃除の肯定的評価は74%である。目標に対してまだ評価が低いが，4月と比べると徐々に無言を意識して，掃除をすることができるようになっている。今後も無言掃除の自己評価と，そうじ名人認定証の取組を行い，学校全体で無言掃除を行っていくことができるようにしていく。 ・保護者による挨拶の肯定的評価は69%であり，家庭での挨拶の声かけは88%である。学校だよりや懇談などで，感謝を伝え，引き続き挨拶への取組への協力をお願いする。		
		自己肯定感の向上	「自尊感情」に係る児童の肯定的評価の割合	85%		山道 田村	・朝の会や帰りの会，道徳の時間を活用し，相互評価を行い自己肯定感を高める場を設ける。 ・学級活動，委員会活動，児童会活動を中心に，児童が主体的に活動できる機会を増やし自己決定力を高めていく。 ・学級活動や授業の中で自己の成長を振り返ったり，お互いを認め合ったりする。	78%	2				・自己肯定感が高まるような取組を各学年や学級で行っていた。道徳の授業や日々の学校生活の中で，機会を逃さずに互いの良さを認める声かけや，モデルとなる良い行動を示し，価値づけを行っていった。 ・児童が主体となって活動する場面があり，活動内容が分かってきたのでよりよくしようとすることや，やってみたいことを考えるようになってきた。今後実行に向けて支援をしていく。		
			一人一表彰	80%		藤渡 坂田	・児童の個性や実態を把握し，長期休業などで特長を生かした取り組みができるようにアドバイスを行う。 ・「まなぶちゃんノート」に記入できる項目を児童に知らせ，月に一回声かけを行う。読書活動を推奨する。 ・「まなぶちゃんノート」への取り組みを教員全体へ周知する。	32.8%	1				・現段階では目標値を下回っている。達成率４０％を超えた学級は２０学級中11学級であった。後期に行われる、陸上記録会や書初め大会、読書紹介文コンクールで表彰したり，まなぶちゃんノートを宿題に出したりして、定期的に達成率を職員に周知することで目標値80%に近づけていく。		
信頼される学校	保護者や地域から信頼される学校づくりを行う	コミュニティ・スクールの推進	地域向けｺﾐｭﾆﾃｨｽｸｰﾙだよりの発行 教職員対象の校内だよりの発行	年10回 年20回	総務部	教頭	・ｺﾐｭﾆﾃｨ・ｽｸｰﾙだよりの発行により，地域や保護者にｺﾐｭﾆﾃｨ・ｽｸｰﾙへの理解や取組についての情報発信を行う。 ・学校運営協議会を活かし，地域の資源，人材，行事等との連携を図った教育活動を推進する。	46.7%	3				・コミュニティ・スクールだより(校外向け)は，年10回のうち，4回発行している。また教職員向けの校内通信は年20回のうち10回発行しており，上半期分はほぼ目標どおり発行できている。地域学校協働活動推進員等との連携を図り，各学年の教育活動に地域の人材や諸団体の活用を図っている。		
		働き方改革の実現	働き方に関する教職員の満足度	８０%以上			・教職員への適切な評価や声掛けにより，教職員の心理的安全性と意欲を高め，やりがいにつなげていく。 ・教科担任制の推進や校務の見直しなど，適切なスケジュール管理や業務改善を図り，子供と向き合う時間の確保に努める。	98.8%	3				・教職員アンケートでは，「学校は働き甲斐がある」「働きやすい職場である」のいずれの項目とも，肯定的評価が100%であった。また，教科担任制の推進や業務改善により，「子供と向き合う時間の確保」についても，96.4%の教職員が肯定的評価をしている。年度末の新校舎への移転を視野に，学習の進捗を早めに進めていけるよう努める。		

評価基準　：　４･･･目標を上回って達成　　３･･･ほぼ目標どおりに達成　　２･･･目標をやや下回った　　１･･･目標をかなり下回った

（100%以上）　　（80%以上100%未満）　　（60%以上80%未満）　　（60%未満）